

宮崎兄弟資料館だより

第9号 2018/09/30

宮崎兄弟の生家施設 開館25周年 記念イベントを開催しました

平成5年6月、宮崎兄弟の生家施設は、「宮崎兄弟の功績を顕彰し、地域文化の向上に資するとともに、荒尾市と中国との友好のシンボル施設として活用を図る」ことを目的にオープンしました。それから25年—荒尾市教育委員会では、例年のイベントに加え、記念イベントを開催しました。

第1弾

明治150年・宮崎兄弟の生家施設開館25周年記念 宮崎兄弟資料館企画展 「もう一つの維新一宮崎八郎がみた夢」

平成30年は明治150年の年でもあります。「自由民権」に生涯をささげた「宮崎兄弟」の原点・八郎が、どのような日本をつくろうと、明治という激動の時代を駆け抜けたのか、その人物像に迫る企画展を、4月8日から行いました（9月24日終了）。

企画展は前期と後期に分け、前期は八郎が父・長蔵に宛てた手紙を中心に展示し、八郎がどのようなことを伝えていたのか、彼の活動のようすやその思想について紹介しました。また、後期には、「宮崎兄弟」のいここである一木齊太郎（1859-1910）や宮崎家の養子であった高木元右衛門（1833-1864）、幕末の熊本を代表する実学派の横井小楠（1809-1869）、そして西南戦争で八郎がともに戦った西郷隆盛（1828-1877）らに関連する史資料を展示し、彼をとりまく人物から、八郎が生きた時代状況に迫りました。

また、くまもと県民交流館パレアにて、この企画展の一部をご紹介するパレアロビー展も開催させていただきました。



▲企画展ポスター



▲後期企画展のようす



▲パレアロビー展のようす

恒例行事となっている牡丹茶会と牡丹文芸・美術展も同時開催し、期間中、多くの方に宮崎兄弟に来所いただきました。



▲牡丹茶会、牡丹文芸・美術展のようす

第2弾

宮崎兄弟の生家施設開館25周年記念講演会 「宮崎兄弟 世界をかける」

9月23日（日）、荒尾市役所11号会議室にて、記念講演会「宮崎兄弟 世界をかける」を開催しました。講演会では、宮崎兄弟が成し遂げてきた偉業やその歴史的価値について、近代日本史を代表する研究者であり、『荒尾市史』の編集委員長も務められた猪飼隆明氏（大阪大学名誉教授）に語っていただきました。

また、講演会後には、学芸員による宮崎兄弟資料館見学ツアーも行いました（希望者のみ）。参加者からは、「宮崎兄弟のすばらしさがよく分かった」などの声が聞かれました。



- (上) 猪飼先生の熱弁に、参加者の方々は熱心に耳を傾けていらっしゃいました。
- (下) 「宮崎兄弟はどんな人なのか」実際の資料を見ながらの見学ツアーには、約20名の方が参加くださいました！



☆荒尾市宮崎兄弟顕彰基金への寄附のお願い☆

荒尾市では「荒尾市宮崎兄弟顕彰基金」を設置し、宮崎兄弟の生家施設の維持管理や、宮崎兄弟の顕彰事業に活用しています。世界に誇ることができる荒尾の偉人の歴史を次代に継承していくため、寄附に御協力をお願いいたします。



ご協力をお願い
します！

みやじゃっきとーてん

・4/8(日) 第24回 牡丹茶会

今年も、宮崎兄弟の生家の庭には、ピンクの綺麗な牡丹の花がたくさん咲きました。中国総領事館から寄贈された赤の牡丹をはじめ、濃い紫や淡いピンク、黄色の牡丹も次々と咲き、訪れる多くの方を楽しませてくれました。牡丹茶会当日は、清々しいほどのお天気で、お抹茶とお菓子をいただきながら、来館者の皆様に春の季節を楽しんでいただきました。



今年のお菓子は、お菓子の香梅さんの「加勢以多」。熊本を代表するお茶に合うお菓子として雑誌などでも紹介されています。



牡丹茶会当日は、淡いピンクの牡丹がちょうど満開に！

・4/8(日)～5/6(日) 第5回牡丹文芸・美術展

宮崎兄弟の生家施設で育てている牡丹をテーマにした絵画・俳句・押花の作品を展示する牡丹文芸・美術展を、今年も宮崎兄弟の生家で開催しました。一般から応募を募り、今年も全27点の作品が寄せられました。春休み少年少女俳句教室で詠まれた子どもたちの俳句作品も力作ぞろいで、木造の生家に春の華やぎが加えられ、宮崎兄弟の生家施設開館25周年記念イベントに彩りを添えました。



・7/25(水)・7/27(金)・7/29(日)、8/1(水)・8/4(土) 第41回夏休み少年少女俳句教室

41回目を迎えた夏休み少年少女俳句教室ですが、今年は「異常な暑さ」が各種メディアで報道されたことから、宮崎兄弟の生家での教室は行われず、中央公民館で開催されました。しかし、教室開催後、参加者の子どもたちから、「宮崎兄弟の生家が良い」という声があったと伺いました。宮崎兄弟の生家には、現代ではほとんど見られなくなった茅葺き屋根をはじめ、縁側から広がる庭には様々な季節の植物が見え、子どもたちが詠歌するのにとても良い環境です。今年作品の一部をご紹介します。

あさはやく ぼくをおこした せみのこえ
(1年 石橋ひろとき)
がっこうの プールのはしに あまがえる
(2年 荒尾快晴)
すずしいな もぐって見える 水の中
(3年 藤田 一翠)
朝顔や 日中友好の 花開く
(5年 石橋正教)
起きてすぐ ラジオ体操 セミの声
(6年 田中真結)

・9/29(土) 第13回音と光の祭典

今年の音と光の祭典は、台風24号接近と秋雨前線の影響によるあいにくの雨で、宮崎兄弟の生家施設ではなく、荒尾第一小学校の体育館で行われました。ですが、テーマ「『自由と平等』現代(いま)に活かそう、宮崎兄弟の精神を！」をもとに、荒尾第一小学校の6年生の子どもたちによるペープサート(紙人形劇)をはじめ、海陽中の吹奏楽部やe-miyabissimoも、荒尾太鼓さんたちによるステージで会場は盛り上がりしていました。また、ちゃんこや焼きそばなどのお店が出店する「滔天マルシェ」も開催されました。



荒尾第一小学校の6年生たちによるペープサートは、BGMも駆使し、とても分かりやすいものでした。

資料紹介⑧

八郎元服の前髪（元治元年）

1864（元治元）年12月10日、父・長蔵とともに第一次長州征伐（1864-1865）に出陣した際、八郎は小倉萩崎の細川藩陣屋で元服の式をあげた。その際に切られた前髪。烏帽子親には荒尾出身の実学派であり藩校・時習館の訓導であった月田蒙斎（1807-1866）がなっている。

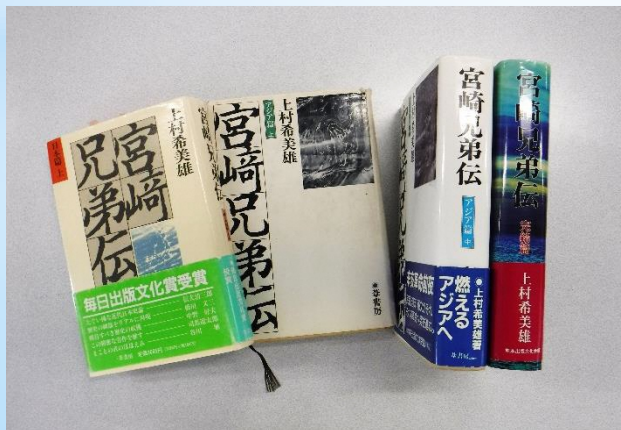


書籍紹介①

上村希美雄『宮崎兄弟伝』 （日本篇上・下、アジア篇上・中・下、）

著者の上村希美雄氏は、熊本市立図書館司書を務めるなか、宮崎兄弟の原資料に触れたことをきっかけに宮崎兄弟に関する研究を緻密に行った研究者であり、熊本短期大学社会科学助教授、熊本学園大学教授の経歴をもつ。

『宮崎兄弟伝』日本篇上・下は、毎日出版文化賞・熊日文学賞を受賞した著作で、その後刊行されたアジア篇上・中・下（葦書房）、完結編（熊本出版文化会館）を合わせ、宮崎兄弟研究の基本的文献であるといえる。



<今後の予定（10月1日～）>

- ・JR九州ウォーキング（11月3日）
- ・滔天忌俳句大会（12月6日）
- ・文化財防火デー「防火訓練」（1月25日）
- ・春の華展（3月23日～24日）

皆様の御来館をスタッフ一同、心よりお待ちしております！

※詳細については荒尾市教育委員会（☎0968-63-1681）までお問合せください。

～編集後記～

今年は宮崎兄弟の生家施設が開館してから25周年という節目の年で、年度当初からのイベント開催のため慌ただしい幕開けとなりましたが、史料提供者の方々のご協力のおかげで、八郎に関する企画展を無事に開催することができました。また、宮崎兄弟の歴史的価値や魅力を改めて知ってもらうために開催した記念講演会においても、猪飼隆明大阪大学名誉教授のご協力をたまわり、約70名の方々が熱心に講演を聞いてくださる機会を得ることができました。こうした記念イベントを経て、多くの方からご意見や感想をいただくなか、個人的にも、宮崎兄弟のすばらしさを改めて感じた半年でした。また、今回のような多くの協力者・理解者、そして次代につなごうという先人たちの努力があつてこそ、今日、私もその一端に触れることができているのだと思うと、とてもありがたく、平凡な表現ではありますが、幸せだなとつくづく感じました。開館にあたられた上村希美雄先生の「特別寄稿 宮崎兄弟資料館の開設に参画して」（『日中に架ける橋 孫文と宮崎兄弟』1995年）を読むと、また、その思いもひとしおで、これからも中国をはじめとしたアジアの国々など、世界との交流拠点としての役割を果たしていけるような取組みをしていかなければと思いました。もちろん、地域の方々の理解あつてこそ、ですので、地域に根ざした施設として、そして荒尾の子どもたちに郷土への誇りを持ってもらえる教育施設としての役割も果たしていけるよう励みたいと思います。…とは言え、まだまだ今年度も折り返し。引き続き、宮崎兄弟の顕彰のため、日々の仕事をきちんとしていきたいと思っています。

～次号予告～

次回の「宮崎兄弟資料館・館報」9号は、**2019（平成31）年3月**に発行予定です。

内容は、

- (1) 生家だより No.10
- (2) 資料紹介⑨
- (3) 施設紹介⑤
- (4) 書籍紹介②

を予定しております。その他、掲載内容について何かご意見・ご要望があれば、下記メールアドレスまでお寄せください。

E-mail : culture@city.arao.lg.jp

（担当：野田【荒尾市教育委員会】）